

脳卒中回復期リハビリテーション病棟における 自宅復帰の要因に関する調査



地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター
加藤有香子、高橋琴絵、佐々木正弘、石川達哉
伊藤真紀子、近藤多美子、川村みどり、工藤郁恵

はじめに

【当センターの概要】

- ◆1968年「脳卒中の撲滅」を目指し秋田県が設立した研究所を持つ脳卒中専門病院
- ◆2008年 回復期リハビリテーション病棟を開設
- ◆2015年 循環器分野(内科・外科)拡充

【回復期リハビリテーション病棟】

- ◆急性期病棟からの転棟と他院からの転院を受け入れている
- ◆自宅復帰率
2019年度 87.0%
2020年度 91.6%

目的

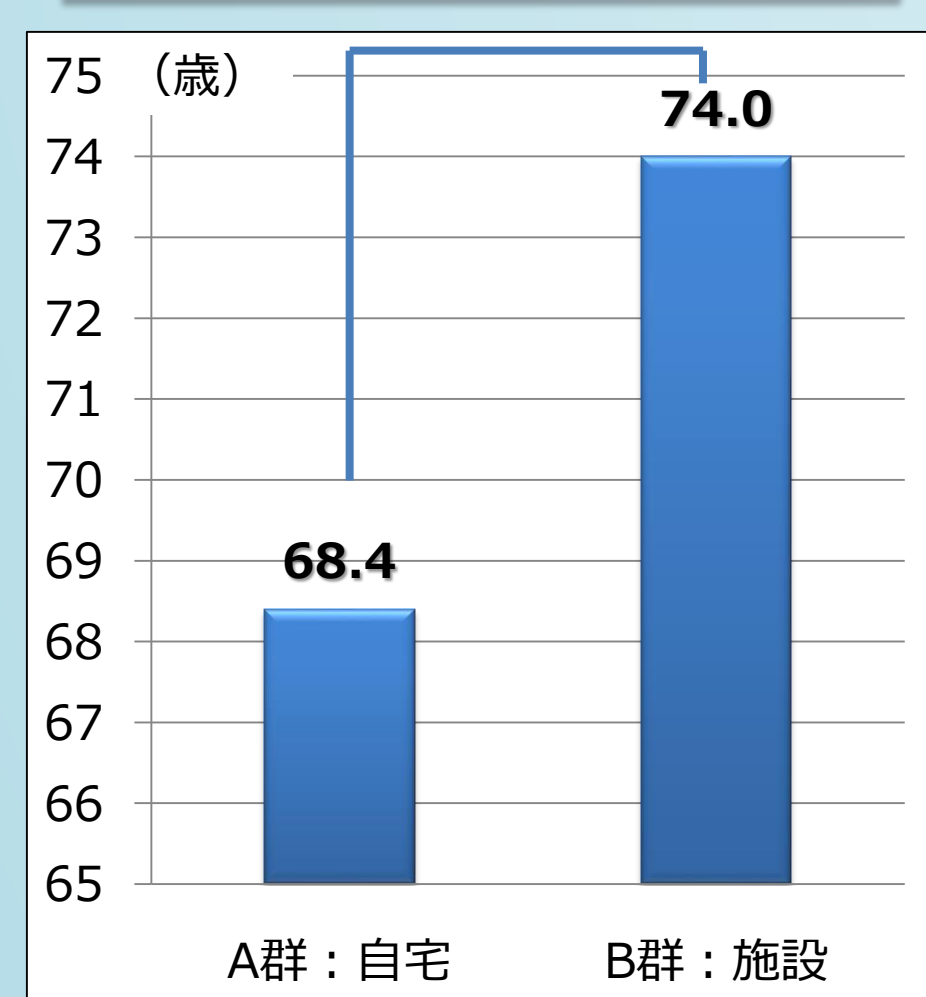
- ◆転帰先として自宅を希望する患者が多いことから、自宅復帰患者と施設退院患者の属性・環境因子を抽出し、比較・調査を行う
- ◆自宅復帰に関連する要因を調査し、自宅復帰の指標となる資料を作成する
- ◆2021年4月からの入棟患者で作成した指標となる資料と傾向との整合性を確認し、自宅復帰指標を修正する
- ◆社会福祉士として自宅復帰に向けたアプローチを考察する

方法

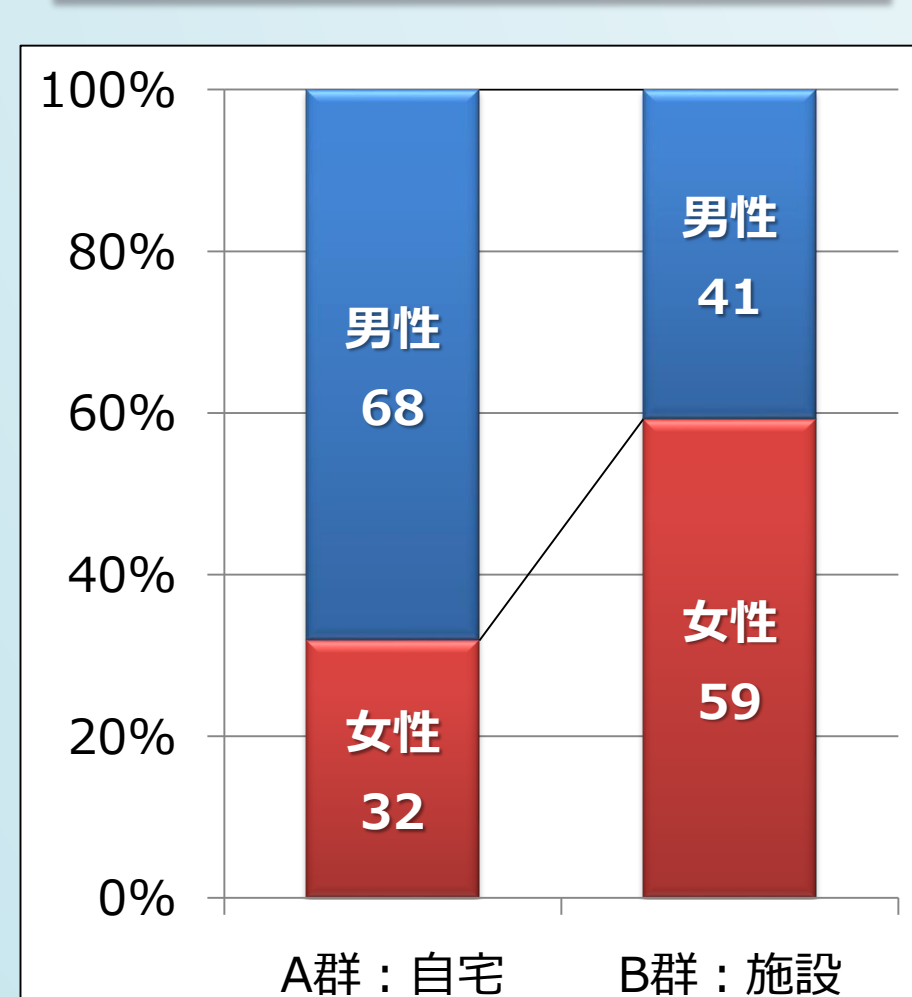
- ◆2019年4月から2020年3月までに回復期リハビリテーション病棟へ入棟した患者140例(他院へ転院となった患者を除く)
- ◆自宅復帰をA群、施設退院をB群とした
- ◆年齢・性別・病型・在院日数、FIM・MMSE・GDS15、介護保険と身体障害者手帳の申請状況、家族指導や家屋訪問・試験外泊の実施、家族構成・関係と住環境を抽出した
- ◆FIM・MMSE・GDS15は退院時平均値を分析し、住環境は所有・賃貸と居住階数をそれぞれ比較した
- ◆平均要介護度の算出は要支援1・2を0.375として計算した

結果

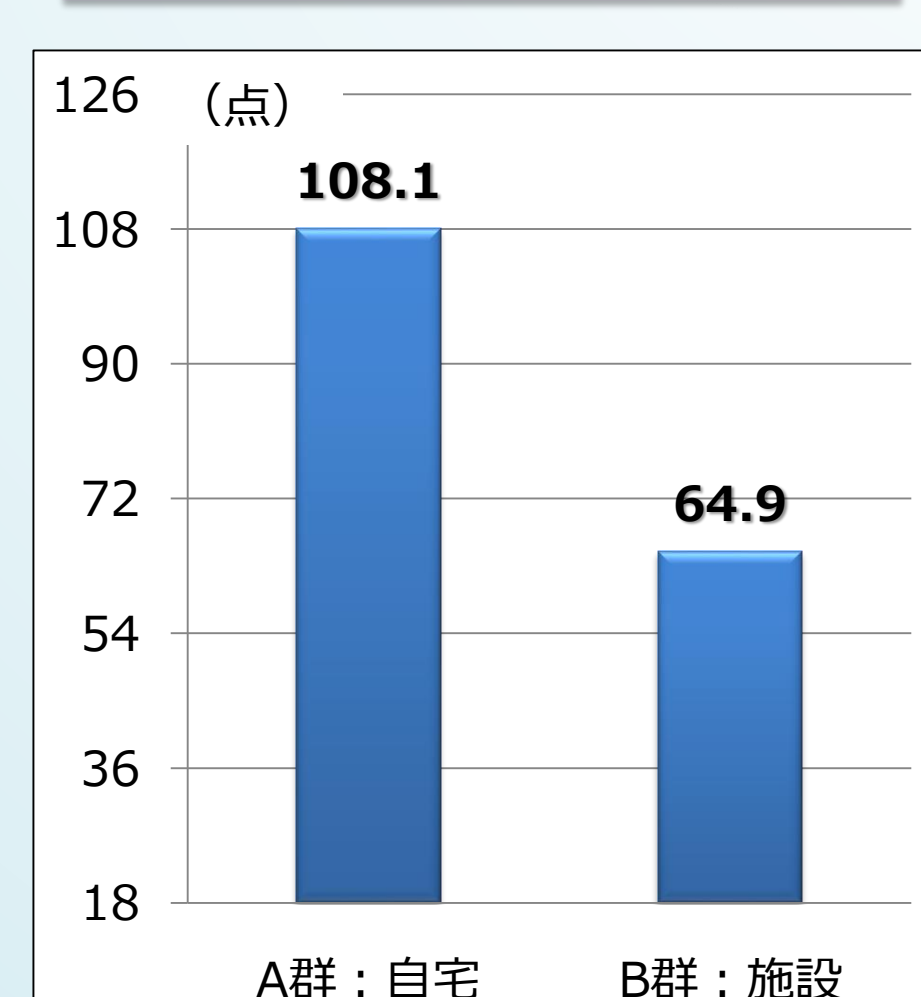
平均年齢



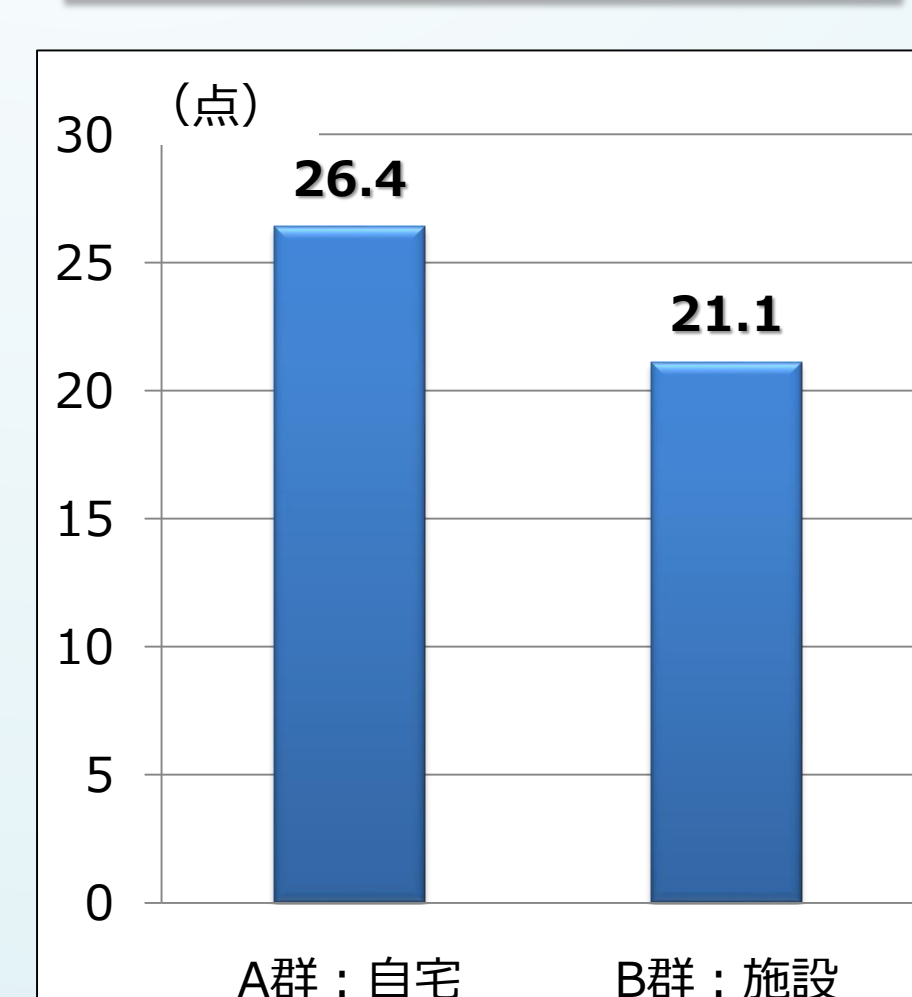
男女比



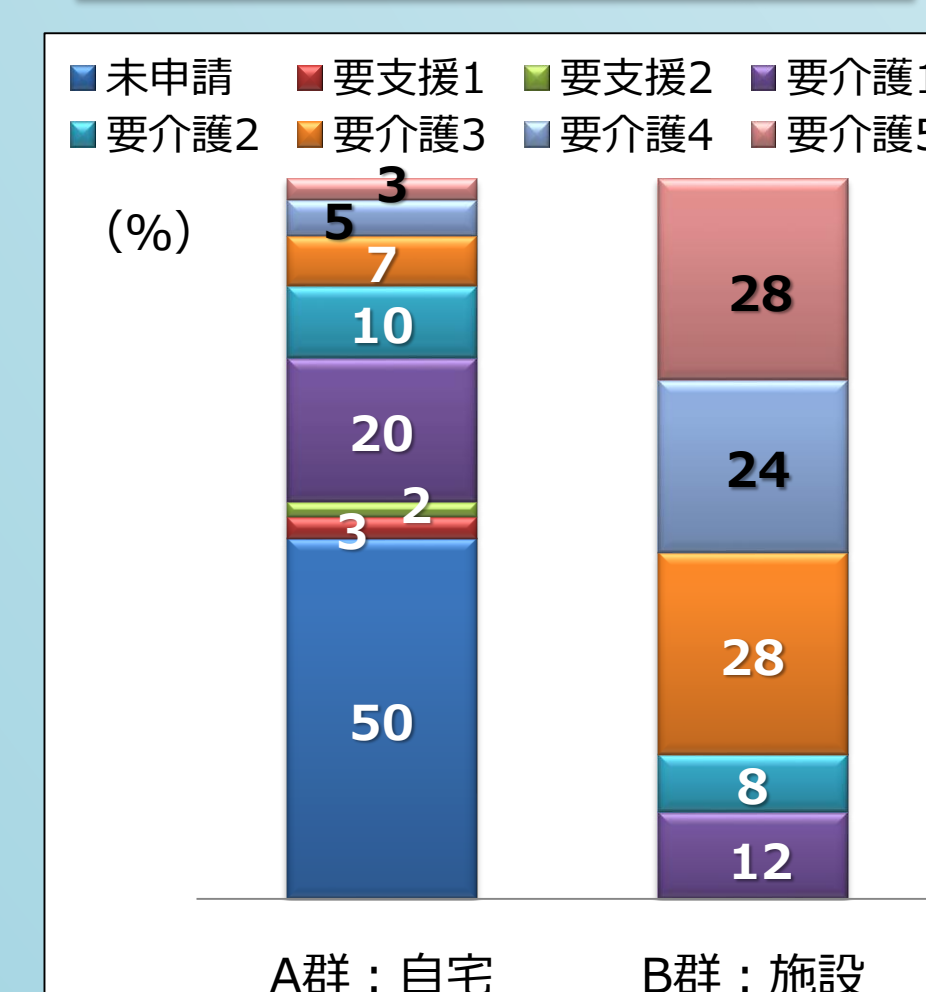
退院時FIM



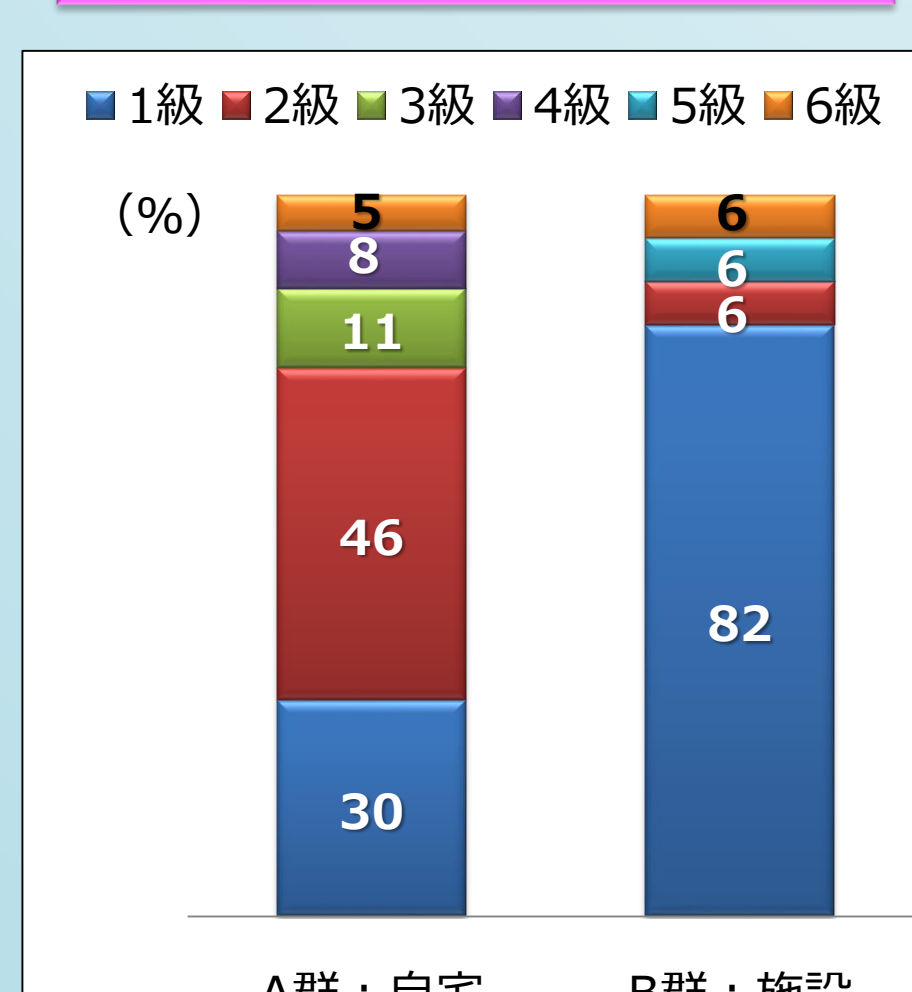
退院時MMSE



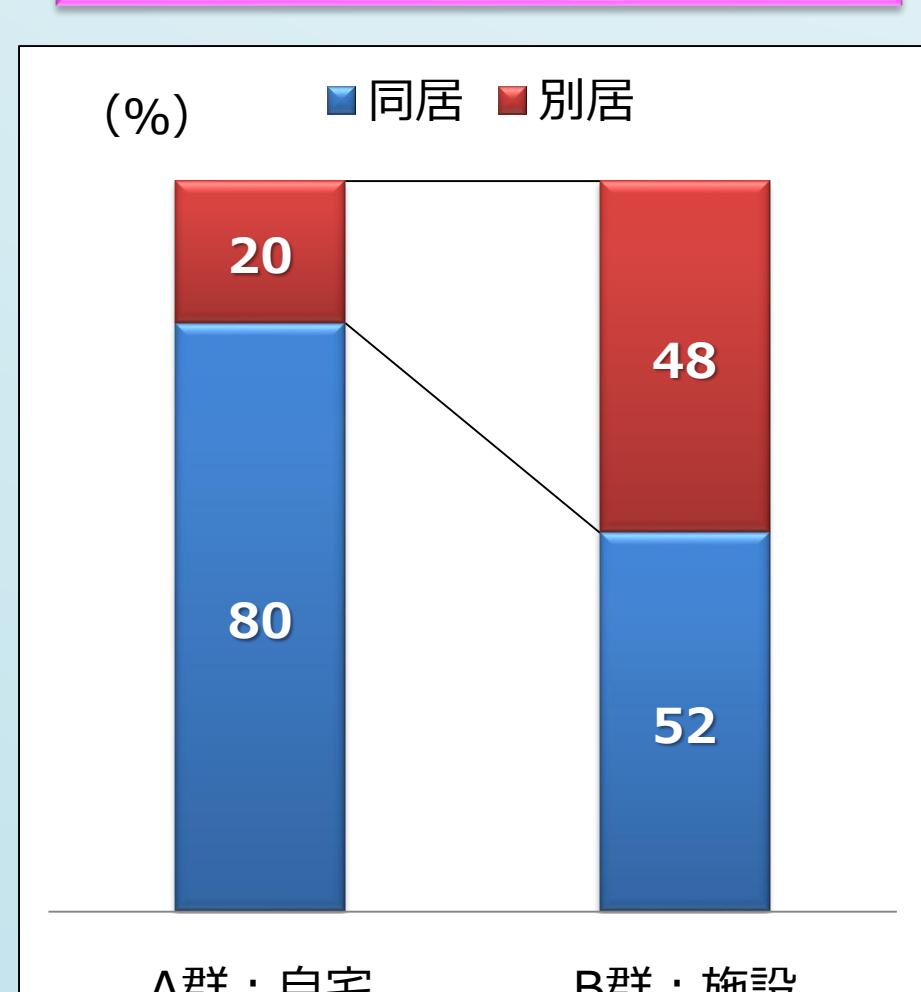
介護保険



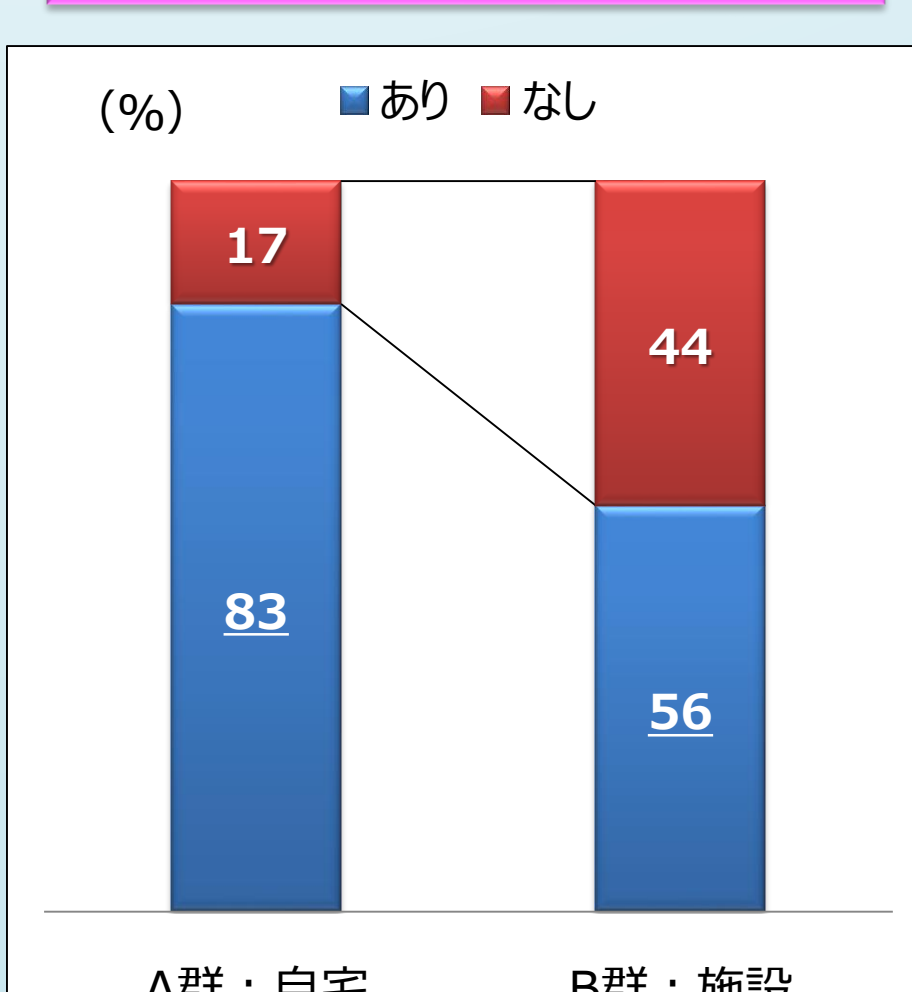
身体障害者手帳



キーパーソン



介護者



結論

- ◆自宅復帰に関連する要因は、年齢・性別・身体機能・認知機能、家族指導・家屋訪問・試験外泊の実施とキーパーソンの同居や介護者の存在であった
- ◆家族関係・構成や住環境の関連性は低かった
⇒自宅復帰に必要な因子は介護量と介護力とのバランスが取れていることであった
- ◆社会資源の充実と有効な活用による介護者・要介護者の負担軽減が必要



第59回全国自治体病院学会
利益相反の開示

筆頭発表者名：加藤有香子

私は今回の演題に関連して、
開示すべき利益相反はありません。

- ◆全体140例 A群113例 B群27例 ◆平均在院日数 A群79.7日 B群69.5日
- ◆退院時平均GDS15 A群5.2点 B群7.7点 ◆平均要介護度 全体2.42 A群1.95 B群3.48
- ◆家族指導 A群95例 B群1例 ◆家屋訪問 A群34例 B群なし ◆試験外泊 A群82例、B群なし
- ◆病型・介護者数・家族構成・家族関係の割合と住環境では有意差なし